

[4] これまでの取組と成果・検証

本市は、旧中心市街地活性化基本計画を策定していないため、旧中心市街地活性化法が施行された平成 10 年以降に、油津地区内の中心市街地及びその近隣地域において実施した事業について、項目毎に評価・検証を行った。

(1) 市街地の整備改善

堀川運河の石積護岸の復元整備や広場の整備、訪れた市民や観光客が回遊しやすい快適な道路空間の形成、魅力ある景観の保全と育成、訪れた人の交流等の拠点となる施設の耐震改修等の整備など、歴史的港湾施設である堀川運河を中心に、市街地整備改善のための事業を実施した。

また、一部事業は、平成 15 年に発足した「油津地区・都市デザイン会議（委員長：篠原修東京大学名誉教授）」において、学識者や専門家、行政、市民の関係者が一堂に会し、堀川運河などの歴史的資産を活かすことを基軸とした統一したデザイン等の検討を行って実施した。

NO	事業名	進捗	概要
①	歴史的港湾環境創造事業 (堀川橋上流側・県事業)	完了	堀川運河を歴史的港湾施設として保存・整備
②	漁港環境整備事業 (堀川橋下流側・県事業)	継続	堀川運河護岸石積みの文化財的復元整備と大正に整備された突堤の整備
③	堀川運河ふれあい文化交流促進事業 (県事業)	継続	埋め立てられた緑地広場等のリニューアル、堀川運河内の浚渫による環境改善
④	高質空間形成施設事業 (歴みち事業含む・市事業)	継続	市民や来訪者が堀川運河周辺を快適に散策できる町並みに調和した道路空間の形成
⑤	景観形成推進事業 (市事業)	継続	魅力ある景観を保全・育成し、訪れた観光客への快適な環境の提供
⑥	油津赤レンガ館耐震改修事業 (市事業)	完了	交流拠点として利活用するため、耐震改修等必要な整備を行った。
⑦	なかよし公園整備事業 (市事業)	完了	地域住民の憩いの場や防災拠点として利活用するためのリニューアル整備
⑧	天福公園（球場）整備事業 (市事業)	完了	全体的な施設の老朽化等に伴う球場や駐車場等の整備を行った。
⑨	海田天福線街路事業 (市事業)	完了	油津駅から天福球場につながる市道の利便性向上や快適な道路空間を提供するための整備
⑩	下水道整備事業 (市事業)	完了	下水道を整備することで、堀川運河の水質向上と快適な環境整備を図った。
⑪	まちづくり活動推進事業 (市事業)	継続	油津地区で県及び市が整備する公共施設のデザインの統一化及び市民への P R
⑫	国道 220 号春日地区電線共同溝整備事業（国事業）	完了	春日交差点において、「道路景観の向上」等を目的に、無電柱化を行った。

1) 歴史的港湾環境創造事業（堀川橋上流側・県事業）

〔図表①〕

江戸時代に関削され、昭和 30 年代まで油津地区の経済を支えた堀川運河は、昭和 40 年代に、生活排水等でヘドロが溜まり悪臭が漂うようになったため、運河のほとんどを埋め立てることが決定し、運河の一部が埋め立てられたが、市民の反対運動により埋め立てが中止され、歴史的港湾施設として保存整備されることとなった。整備にあたっては、堀川運河の歴史的・文化財的価値を再評価し、護岸石積みの文化財的復元を軸に、地場産材飫肥杉や飫肥石を活用した夢見橋（木橋）やボードデッキ、市民や観光客が憩い、交流するための堀川夢ひろばなど、堀川運河を中心としたウォーターフロント・デザインによる整備を行った。現在、堀川夢ひろばは、イベントなど、交流の場として活用されている。



▲堀川夢ひろば・夢見橋

2) 漁港環境整備事業（堀川橋下流側・県事業）

〔図表②〕

〔図表①〕の事業と同じコンセプトのもと、堀川運河護岸石積みの文化財的復元整備を行った。また、大正6年に、当時の農商務省が、国内7箇所（九州では油津港のみ）の漁港を指定して整備を行った際の護岸が現在の突堤の下に残っており、大正から昭和初期にかけて油津の繁栄を支えた施設であることから、歴史的遺構を復元し、港町文化を継承するとともに、市民の憩いの場としての公園化や、観光客等が乗船体験等のできる復元されたチョロ船の発着場等の整備が進められている。

3) 高質空間形成施設事業（歴みち事業含む・市事業）

〔図表④〕

地道風の脱色アスファルト舗装や地場産飫肥石を使用した側溝蓋など、港町油津の町並みに調和した整備を図り、来訪者が堀川運河周辺を快適に散策できる道路空間の形成を図っている。また、散策のみではなく、油津赤レンガ館など国の登録有形文化財が集積している地区や地元商店街などで、賑わいを創出するためのネットワークの形成を図ることを目的としている。



▲堀川運河沿いの市道

4) 景観形成推進事業（市事業）

〔図表⑤〕

本市は、平成 17 年 8 月、県内では初の「景観行政団体」としての県知事同意を得るとともに、平成 18 年 12 月には、「日南市美しいまちづくり景観基本条例」を制定し、魅力ある景観を将来にわたって、保全、育成、創造するための取組を積極的に図っていくこととしている。特に油津地区の堀川運河周辺



▲景観形成推進事業補助金を活用して改修された民家

については、景観計画を策定し、市民、事業者等が積極的に景観形成に取り組めるよう、当該事業において、建築物、工作物等の新築、増築、改築に係る費用の一部を助成するものである。魅力ある景観を保全・育成することで、快適な生活環境を整えるとともに、訪れた観光客に快適な環境を提供することができる。

5) 油津赤レンガ館耐震改修事業（市事業） [図表⑥]

大正期のモダンな面影を残している油津赤レンガ館が、平成9年に競売にかけられそうになったところ、取り壊されることを危惧した地元の有志31名が、一人100万円ずつ出し合って合名会社を設立し、油津赤レンガ館を含む敷地・建物全て買い取り保存を行った。平成16年には、まちづくりに活用してもらおうと、建物等が全て市に寄付された。



▲油津赤レンガ館

寄付を受けた市は、国の登録有形文化財で、歴史的資産である油津赤レンガ館を後世に残していくとともに、観光客の休憩・喫茶の場など、施設周辺の回遊を促す拠点施設として活用するため、耐震改修及び利活用に必要な整備を行った。

現在は市の管理の下、自由に見学できる施設として開放するとともに、油津のまちづくり団体による飴肥杉を使った作品の展示や、国際交流員が主催する国際交流イベント等で活用されている。今後は、改修目的に沿った、交流拠点としての活用を図っていかねばならない。

(2) 都市福利施設の整備改善

障がいのある児童の受入重点校としての油津小学校の整備や、生涯学習の中核施設として「まなびピア」の整備を行い、教育環境や生涯学習環境の整備を図った。

NO	事業名	進捗	内容
⑬	人にやさしい学校施設づくり重点事業 (油津小学校)	完了	本市における障がいのある児童の受入重点校としての充実を図った。
⑭	生涯学習施設「まなびピア」建設事業	完了	地域の生涯学習の中核的施設及び災害時の避難場所としての機能を有する。

1) 人にやさしい学校施設づくり重点事業(油津小学校)

[図表⑬]

障がいのある児童が安心して学校生活を送れるように、エレベーター、渡り廊下、多目的トイレなどの改修工事を実施し、本市における障がいのある児童の受入重点校としての充実を図った(平成22年3名(うち、校区外からの通学者2名))。



▲油津小学校

<※油津中学校建設事業>

中心市街地に隣接する油津中学校も、小学校と同様、障がいのある生徒が安心して学校生活を送れるよう、エレベーター等を設置するなど、バリアフリー仕様とし、同一地区内小中学校環境の一体化を図ることができた。(平成22年1名(うち、校区外からの通学者1名))

2) 生涯学習施設「まなびピア」建設事業 [図表⑭]

会議室や体育館等の施設に、図書館分館を併設し、地域の生涯学習推進の中核的な役割を果たすとともに、災害時の避難場所としての公民館的機能も有する施設とすることを目的に、旧県立日南病院跡地に生涯学習施設「まなびピア」を建設した。



▲生涯学習施設「まなびピア」

平成21年度の年間利用者数は、76,006人となっており、類似施設である南郷ハートフルセンターの同年の年間利用者数44,602人と比較すると、約1.7倍と利用者が多く、本市の生涯学習の拠点施設として、多くの市民に利用されている。

(3) 居住環境の整備改善

老朽化した市営住宅の建て替えを行い、高齢者に対応した居住環境の向上を図った。

NO	事業名	進捗	内容
⑮	園田団地建設事業	完了	老朽化した園田、木山住宅の建替えを目的として、園田団地を建設した。

1) 園田団地建設事業 [図表⑮]

昭和 25～27 及び 37 年に建設された園田、木山住宅の老朽化に伴い、建替えを目的として、市営住宅を建設した。

構造は、鉄筋コンクリート 7 階建てで、延床面積 4,930 ㎡、1DK 28 戸、2LDK 8 戸、3DK 24 戸の 3 タイプからなり、高齢単身者から、多人数世帯までに対応したものとした。



▲園田団地

＜津の峯団地建設事業（中心市街地隣接地区）＞ → 完了

昭和 32～33 年に建設された天福住宅の老朽化と、天福運動公園の整備拡充を目的として、市営住宅の建替えを目的として、建設した。

構造は、鉄筋コンクリート 9 階建てで、延床面積 3,753 ㎡、1DK 48 戸、3DK 8 戸の 2 タイプからなり、高齢単身者から、多人数世帯まで対応し、堀川運河を臨む建物として、景観に配慮した外観としている。

※ 上記 2 施設とも、全戸においてバリアフリー化し、浴室、トイレに補助手すりや非常用警報装置を設け、安全かつ快適な暮らしのできる住まいとして整備を図ることができた。

(4) 商業活性化のための事業

商店街における空き店舗の増加に伴う空き店舗対策や特色あるテナントの設置、商店街利用者のための駐車場の管理・運営、商店街におけるさまざまなイベントの実施、更には市内の消費向上を目的とした共通商品券事業など、商業活性化のための事業に取り組んだ。

NO	事業名	進捗	内容
⑩	空き店舗対策事業	見直し	空き店舗を解消するため、家賃及び店舗改修費の一部を市が補助し、新規出店の誘導を図った。
⑪	市民駐車場運営事業 → 商店街駐車場運営事業	継続	買い物客等来訪者の利用に資するため、市が費用の一部を補助し、油津商店街振興会が管理運営する。
⑫	アーケードあきんど市 → 地域商店連携事業	継続	アーケードで月1回の定期市を開催。現在は、日南山形屋の「黄札市」に併せ、3商店街合同で「合同黄札市」を実施。
⑬	共通商品券事業	完了	市内の消費向上のため、1割のプレミアをつけた地域共通商品券を発行。
⑭	チャレンジショップ事業	完了	空き店舗の減少と商店街の賑わい創出を目的に、空き店舗をチャレンジショップとして活用を図った。
⑮	サピア景観美化事業	完了	堀川運河に隣接するサピアの店舗看板改修、飫肥杉のプランターを利用した植栽及び駐車場の照明整備を行った。
⑯	油津一番街情報発信事業	見直し	商店街の情報発信を促進するため、ホームページを開設するとともに、商店街に電飾看板を整備した。
⑰	日南元気まつり事業	見直し	地元高校生や高齢者参加型のイベントを日南商工会議所が年1回開催。
⑱	二丁目商店街イメージアップ事業	完了	アーケード撤去後の商店街の景観等の向上を目的に、街路灯と飫肥杉製のプランターを設置した。
⑲	姉妹都市物産交流館事業	廃止	油津商店街振興会が空き店舗を活用し、姉妹都市である愛知県犬山市及び沖縄県那覇市の特産品を販売する店舗を設置した。
㉑	ふれあい交流プラザ事業 → 日南市コミュニティスペース	継続	空き店舗を活用し、高齢者の憩いの場やサークル活動の場所等、多世代が集う場として整備した。
㉒	健康増進館事業	廃止	高齢化社会における健康意識の向上を目的に、岩崎商店街振興組合が、沖縄県の食品加工品を販売する店舗を設置。
㉓	場外舟券売場「オラレ日南」	継続	娯楽性のある県南地区唯一の施設を設置するとともに、周辺商業施設も利用できる駐車場を整備し、まちの新たな魅力の創出を図る。

【用語の意味】継続 … 現行の事業を、本計画で継続するもの。

見直し… 当初の目的を達成しなかったため、内容を見直し、本計画で新たに実施するもの。

完了 … 当初の目的を達成し、事業を終了したもの。

廃止 … 事業継続が困難となり、中止したもの。

1) 空き店舗対策事業 [図表⑩]

平成10年に商店街内のスーパー「マルショク」が撤退した後、増加していた空き店舗を解消するため、テナント家賃及び店舗改修費の一部を市が補助し、新規出店の誘導を図った。

6年間で21店舗の出店を促したが、日南商工会議所や商店街、地権者との連携が機能せず、新規出店者とのコミュニケーションが不足したことや、入居がまばらで、商店街が面として機能しなかったことから、魅力の向上につながらず、来街者も減少したため、家賃補助の終了後に退店する店舗が相次ぎ、現在まで継続して営業している店舗は2店舗のみである。

中心市街地の魅力向上を図るうえで、商店街の位置するエリアの再生は不可欠であることから、本計画においては、過去の成果を踏まえて事業内容を見直し、「テナントミックスサポート事業」などを組み合わせて、新たに事業を実施する。

2) 市民駐車場運営事業 → 商店街駐車場運営事業 [図表⑪]

中心市街地の利便性向上を図るため、市が商店街アーケードに隣接する土地を借り受け、24時間開放型の市民駐車場を設置したが、近隣事業所の従業員が長時間駐車するなどして、買い物客などの来訪者の利用に支障をきたしたため、油津商店街振興会が管理運営し、市が費用の一部を補助する手法に変更した。現在は、商店街の管理の下、「商店街駐車場運営事業」として実施しており、まちの利便性向上を図るため、本計画に継続する。



▲市民駐車場運営事業

3) アーケードあきんど市 → 地域商店連携事業 [図表⑫]

平成7年にリニューアルした、全天候型のアーケードを活用し、商店街を賑わいの空間として創出するため、油津商店街振興会が主体となり、市内外から出店者を募って月1回の定期市を開催した。

1開催平均500人、年間で約6,000人の集客を図り、賑わい創出の一助となったが、補助終了後の資金繰りや、店を営みながらイベントを企画・運営することが困難となり、事業を廃止した。



▲あきんど市(H15)

現在では、商店街に立地する日南山形屋が毎月1回開催する、販促イベントの「黄札市」に併せ、商店街も販促イベントを行う「合同黄札市」を実施しており、このイベントに併せて、商店街内で日南まちづくり株式会社による各種催しを行うなど、商店街の魅力構築に努めており、まちの賑わい創出を図るため、本計画に継続する。

4) チャレンジショップ事業 [図表⑳]

空き店舗率の減少と、商店街の賑わい創出を目的に、日南商工会議所が空き店舗をインキュベータ施設として借り受け、チャレンジショップとしての活用を図った。実施初年度に3件、2年目に2件が入店し、日南商工会議所が借り受けていた空き店舗が満床となった。



▲チャレンジショップ「元気館」

入店した5店舗のうち、2店舗が商店街で引き続き営業し、他の3店舗は、他所で営業を開始したため、インキュベータ施設としての所期の目的を達成し、事業を完了した。

しかし、営業を続けた2店舗も翌年には業績不振で退店したため、先に実施した空き店舗対策事業と同様、本計画において実施する「空き店舗対策事業」や「テナントミックスサポート事業」では、手法について検討を深める必要がある。

5) 日南元気まつり事業 [図表㉓]

商店街の賑わい創出を図るため、地元高校の学生や高齢者参加型のイベントを、日南商工会議所が主体となり年1回開催した。

高校生の模擬店やチャリティショップ、バザーなどの店舗や、老若男女が楽しめるイベントを展開して、1開催平均約3,000人の集客を図り、商店街の賑わい形成につながったが、補助終了後は、事業費の確保ができず、事業廃止となった。



▲元気まつり(H16)

しかし、中心市街地の賑わい創出のためには、多世代が集える空間の形成が不可欠であることから、本計画においては、過去の成果を踏まえて事業内容を見直し、新たな展開で実施する。

6) ふれあい交流プラザ事業

→ 日南市コミュニティスペース [図表㉔]

多世代の人が集う場を形成し、来街者を誘導するため、日南商工会議所が空き店舗を活用し、高齢者の憩いの場やサークルの活動場所、来街者の休憩の場となるオープンスペースを設け、湯茶サービスや無料で利用できる電位治療器等を設置した施設を姉妹都市物産交流館と併設して整備した。通年オープンした平成17年度の年間利用者数は11,016人で、平成21年度の年間利用者数は13,233人と、利用者数が増加しており、中心市街地への来街者を誘導する目的を果たしている。



▲陶芸教室(交流プラザ)

平成24年度には、併設するオウレの設置に伴い「地域交流施設」としてリニューアルし、開館時間を延長することで、更なる来街者の増加を図ることとしており、本計画において継続する。

7) 場外舟券売場「オラレ日南」 [図表⑳]

商店街にある空き店舗を活用し、まちの新たな魅力を創出し、市内外から中心市街地への来街者の誘導を図ることを目的に、県南唯一の施設として設置した。この施設の設置に併せて、周辺の商業施設利用者も利用可能な駐車場も整備され、商業施設利用者の利便性向上にも繋がっている。

施設オープン後、この施設に近い調査ポイントにおける歩行者通行量は、334人から780人と、約2.3倍となっており、本計画において継続する。



▲オラレ日南

(5) 観光推進のための事業

油津赤レンガ館やチョロ船といった歴史的資産を活用し、チョロ船を使った定期運行実験、堀川運河周辺を訪れる体験メニューを取り入れたるモニターツアー、ＪＲ日南線の「海幸山幸」によるモニターツアーなど、堀川運河周辺への観光客の誘引とＰＲを推進する事業に取り組んだ。

NO	事業名	進捗	内容
②⑨	堀川運河ふれあい文化交流促進事業（市事業）	継続	弁甲筏流し及びチョロ船の定期運行実験により堀川運河周辺の賑わい創出を図る。
③⑩	歴史・神話と油津ロマンツアー事業（モニターツアー（日南海岸きらめきライン日南エリア協議会））	終了	堀川運河周辺の散策、油津ならではの食の提供や灯ろうづくり体験等を、民間団体が主となって取り組み、堀川運河周辺のＰＲを図った。
③⑪	ＪＲ観光特急「海幸山幸」で行く日南モニターツアー（市事業）	終了	観光特急「海幸山幸」を使ったモニターツアーを実施し、堀川運河周辺の散策、新ご当地グルメ「カツオ炙り重」を提供し、ＰＲを図った。

1) 堀川運河ふれあい文化交流促進事業（市事業） [図表②⑨]

港町油津の文化である、弁甲筏流しやチョロ船の定期運行実験を行い、そこから周辺の歴史的町並みの散策などに展開し、賑わいの創出を図ることを目的とした事業である。特に、平成 19 年からは、この定期運行実験に合わせて、海上釣り体験や屋形船、レンタサイクルをセットにしたまちなか観光等、趣向を凝らした新しい試みを実施した。



▲チョロ船定期運行実験

平成 22 年度の運行実験回数は、延べ 20 回、乗船者は 1, 113 人となっている。乗船者アンケートの結果から、常時チョロ船の乗船体験ができる体制づくりや、食と周辺散策を組み合わせたメニューづくり、チョロ船の情報発信を求める意見などが多く寄せられた。このことから、今後の堀川運河周辺の賑わいを創出するためには、チョロ船は必要不可欠であり、食や周辺散策コースの設定等、様々なメニューと組み合わせた観光環境の形成を図る必要がある。

※チョロ船

昭和 30 年代まで漁船として活躍した木造帆船。ＦＲＰ 船が主力になった昭和 40 年代頃から見られなくなったが、平成 13 年に、地元の有志が約 50 年ぶりにチョロ船を復元した。現在は 3 隻のチョロ船があり、イベント時の乗船体験や小学生の地域学習等で活用されながら、定期運行実験を実施している。

2) 歴史・神話と油津ロマンツアー事業 [図表③〇]

日南市内で活動している市民団体が協力し、堀川運河周辺を中心に、市民が主体となったおもてなしによるモニターツアーを実施し、PRを図るとともに、アンケート調査を実施し、魅力ある空間や地域づくりに求められる課題の発掘と検証を行った。このツアーでは、地元の海産物を使った「魚うどん」など地元の食材を使った手作りの食を提供するとともに、チョロ船乗船や竹とうろう作り体験など、アンケート結果からも、地元住民の温かさを非常に感じたとの意見が多く出されている。このことは、今後、堀川運河周辺でのオプショナル的なツアーを造成する上で、重要な要素となるものである。



▲竹とうろうづくり体験

3) JR観光特急「海幸山幸」で行く日南モニターツアー [図表③①]

JR九州が、平成21年10月から、「海幸山幸」の運行をJR日南線で開始した。市外からの観光客の誘引を図るため、平成22年度、この列車を活用したモニターツアーを2回実施し、そのうちの1回は堀川運河周辺の散策と新ご当地グルメ「カツオ炙り重」を取り入れたツアーとして実施した。アンケート結果から、参加者した動機として一番多かったのは「海幸山幸」への乗車で、次に多かったのが、ご当地グルメ「カツオ炙り重」であった。このことから、観光客を誘引するためには、観光特急「海幸山幸」といった特色ある本市までの移動ツールと、カツオなど本市の特色ある海山産品（食資源）の活用が必要である。今後も、このようなモニターツアーを継続することで、より良いツアーの造成につなげるとともに、堀川運河をはじめとする本市の観光PRに繋がるものと思われる。



▲「海幸山幸」で行く
日南モニターツアー

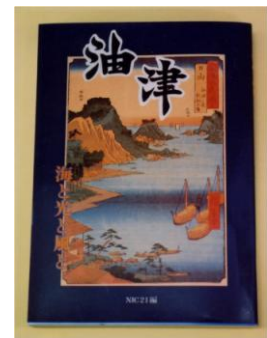
(6) 各種団体等の取組

市民により組織された各種団体や日南商工会議所など、堀川運河を中心とした油津のまちづくり、歴史的建造物の保存、賑わい創出のためのイベントなど、訪れる観光客等の受入やおもてなしに取り組んだ。

NO	団 体 名	内 容
③②	日南市産業活性化協議会 (N I C 2 1)	油津のまちづくりに取り組んでいる異業種交流グループ。「油津～海と光と風と～」を、会員のみで執筆・編集して刊行した。
③③	合名会社油津赤レンガ館	油津赤レンガ館が競売にかけられそうになり、地元の有志31名が、合名会社を設立し、建物・敷地全て買取り保存を行った。
③④	チョロ船を復元する会・ チョロ船保存会	昭和40年頃まで漁業で活躍した木造帆船チョロ船を、平成13年に約50年ぶりに復元し、現在は、復元された3隻のチョロ船で定期運行実験などを行っている。
③⑤	日南市まちづくり市民協議会	平成14年に、市の公募で約50名の市民が集まり設置された協議会。現在、5つの委員会が様々な活動を行っている。
③⑥	日本風景街道 「日南海岸きらめきライン」	本市を含む日南海岸地域で、民間団体38団体（当時）と周辺5自治体及び地元大学で「日南海岸きらめきライン」を発足し、植栽活動などを行っている。
③⑦	堀川に屋根付き橋をかくっかい 実行委員会	夢見橋のPRや完成を多くの市民で祝うことを目的に、地元のまちづくり団体を中心に発足された団体で、上棟及び竣工イベントを開催し、多くの市民が参加した。
③⑧	日南まちづくり(株)	平成20年に設立され、商店街で健康ウォーキング、キッズカフェ等を実施開催。毎月堀川夢ひろばでイベントを開催。
③⑨	海岸おもてなしまちづくり活動	登録有形文化財が集中する港地区の住民が主体となり、「ニッポン全国きもの日和 in 油津」を平成20年に誘致し、港町油津を着物で歩くイベントを実施した。
④⑩	日南商工会議所	日南商工会議所が中心となった実行委員会を組織し、堀川運河周辺をメイン会場とした「油津堀川まつり」の開催や、新ご当地グルメとして、「日南一本釣りカツオ炙り重」を開発し、魅力の向上や情報発信に努めている。
④⑪	油津商店街振興会	日南山形屋と合同で開催している合同黄札市や、同振興会女性会による、まちのえき「NICHINAN345」を開設し、店舗紹介や観光案内を実施している。
④⑫	J R九州・宮崎交通	J R九州が、J R日南線で内外装に飴肥杉を使用した観光特急「海幸山幸」の運行を開始し、これに併せて、宮崎交通が、観光バス「にちなん号」の運行を開始した。

1) 日南市産業活性化協議会（NIC21） [図表③②]

先進的に油津のまちづくりに取り組んでいる異業種交流グループで、平成5年に、油津のまちづくりのバイブルとも言える「油津～海と光と風と～」を、会員のみで執筆・編集して刊行した。他にも、これまで、まち巡りパンフ作成や総合案内板の設置、チョロ船の復元など、様々な取り組みを実施してきた。最近では、「油津其の二 海と光と風の地名録」を発刊している。



▲書籍「油津」

2) 合名会社油津赤レンガ館 [図表③③]

油津赤レンガ館は、大正十年に河野宗人氏により建築された建物で、約22万個のレンガを使用し、1階中央通路の天井をアーチ型にレンガを組むなど、大正期のモダンな面影を残している。この建物が、平成9年に競売にかけられそうになったところ、取り壊されることを危惧した地元の有志31名が、一人100万円ずつ出し合って合名会社を設立し、油津赤レンガ館を含む敷地・建物全ての買い取り保存を行った。金銭的な問題を全て解消した平成16年には、まちづくりに活用してもらおうと、市へ建物等を全て寄付した（その後、市は、耐震改修を終えて利活用を図っている。）。

3) チョロ船を復元する会・チョロ船保存会 [図表③④]

油津地区は、大正末期から戦前まで東洋一のマグロ基地として栄え、その中で昭和40年頃まで漁業で活躍した木造帆船チョロ船が、FRP船が主力になった昭和40年以降は姿を消したため、油津出身の日本海事史研究家山形欣哉史の呼びかけにより、平成12年に地元有志が「チョロ船を復元する会」を発足し、翌平成13年に市民からの寄付金を募って、約50年ぶりにチョロ船を復元した。現在は、復元された3隻のチョロ船により、定期運行実験などを行っている。



▲チョロ船定期運行実験

4) 日南市まちづくり市民協議会 [図表③⑤]

平成14年度に、市の公募で約50名の市民が集まり、協議会が設置された。設置当初は、当時進められていた歴みち事業へ市民の声を反映するための活動に取り組んだが、その後は、会員独自で5つの委員会を発足し、それぞれが考えるまちづくり活動に取り組んだ。そのうち、景観街並み委員会では、油津地区の歴史的景観を活かすため、地区住民とのワークショップやタウンウォッチング、色彩研修会を行った上で、提言書「日南市油津地区景観条例策定にあたって」を市に上程した。また、堀川運河の整備に関する署名活動や堀川運河周辺の美化活動である「堀川クリーン大作戦」を実施した。

5) 堀川に屋根付き橋をかくっかい実行委員会 [図表③7]

堀川運河の整備において、屋根付き木橋が架けられる際に、「単なる公共事業で終わらせるのはもったいない」、「飫肥杉がふんだんに使われた木橋をPRしたい」、「木橋の完成をみんなで祝いたい」との思いで、地元のまちづくり団体を中心に、商工会議所や施工業者、行政などで「堀川に屋根付き橋をかくっかい実行委員会」を発足し、木橋の部材へのメッセージ記入や橋の名称募集、上棟及び竣工イベント、地元小学生への紙芝居、現場説明等、多くの市民を巻き込んだ取り組みを行った。



▲夢見橋竣工式(H19)

6) 日南商工会議所 [図表④0]

日南商工会議所が中心となった実行委員会を組織し、堀川運河周辺をメイン会場とした市民参加型イベントである「油津堀川まつり」を開催し、大勢の市民で賑わっている。また、平成 22 年には、キッチンカーとともに様々な地域を回る移動型市場の「マルシェ・ジャポン・キャラバン」を誘致し、堀川夢ひろばに 2 日間で 1 万 5 千人が訪れた。



▲日南一本釣りカツオ炙り重

更に、同年 5 月には、新ご当地グルメとして本市が漁獲量全国一を誇る「一本釣りカツオ」を食材にした「日南一本釣りカツオ炙り重」の販売を始め、1 年間で約 30,000 食が提供されるとともに、本年から参加店も増加している。

これらの取組は、地場産物の消費・PRに寄与するとともに、本市の新たな魅力形成の一助となっている。

7) JR九州・宮崎交通 [図表④2]

JR九州は、平成 21 年 10 月から「木のおもちゃのようなリゾート列車」をコンセプトとした観光特急「海幸山幸」の運行を JR 日南線で開始した。土日祝祭日や年末年始等の長期休暇期間に、1 日 1 往復、宮崎駅から南郷駅までの区間で、1 時間 36 分を要して運行しており、平日はチャーターも行っている。この列車は、内装はもとより、外装にも地場産材の飫肥杉を使用していることが特徴であり、デザインは水戸岡鋭治氏、車内のミュージックホーンは、カシオペアの向谷実氏が手がけ、車内では、客室乗務員が、列車のオリジナルグッズや沿線の特産品等の販売及び沿線の観光案内も行っている。運行開始から好評で、平成 23 年 6 月までの 1 年 9 ヶ月間で、約 26,000 人が乗車し、1 日平均乗車人数は、定員 51 名に対し、下り 53 名、上り 50 名であることから、概ね 100%の乗車率である。



▲観光特急「海幸山幸」

これに併せて、宮崎交通も、「海幸山幸」のダイヤに調整して、観光バス「にちなん号」の運行を開始し、鉄道及び道路の両輪で日南を観光できる環境が整った。

(7) その他

歴史的建造物が数多くあり風情あふれる堀川運河周辺では、映画やドラマ等のロケが行われ、また、数多くの賞を受賞している。油津の繁栄をささえた飫肥杉を活かす「飫肥杉課」の取組も始まっている。

NO	項 目	内 容
④③	ロケ	「男はつらいよ寅次郎の青春（第 45 作）」やNHK連続テレビ小説「わかば」のロケが堀川運河周辺で行われ、魅力のある地域であることが証明された。
④④	飫肥杉課	飫肥杉を活かす活動が地域を活かすことに繋がるとし、市の 10 課等の職員 11 人で組織する「飫肥杉を活用した日南再生プロジェクトチーム」である。
④⑤	受賞・百選等	油津地区に係る受賞等については、平成 18 年の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」など、数多く受賞している。

① ロケ [図表④③]

平成 4 年に、「男はつらいよ寅次郎の青春（第 45 作）」のロケが堀川運河周辺で行われ、山田洋次監督を始め、寅次郎役の渥美清、マドンナ役の風吹ジュンなどが訪れた。また、平成 16 年には、NHK の連続テレビ小説「わかば」のロケが油津地区と飫肥地区で行われた。いずれの地区も、歴史や優れた景観を有しているからこそ、これらの映画やテレビのロケ地になったのであり、魅力のある地域であることが証明された結果であると考える。



▲ロケ風景(わかば)

② 飫肥杉課 [図表④④]

平成 19 年 4 月に、市役所内に飫肥杉課を設置した。飫肥杉課とは、行政組織における正式な課ではなく、10 課等の職員 11 人で組織する「飫肥杉を活用した日南再生プロジェクトチーム」の通称である。飫肥杉は、市の木でもあり、かつての市の経済を潤し活力を与えた源であったが、今は、価格低迷や後継者不足などの様々な面で苦境に立たされている。そんな中、飫肥杉を活かす活動が、地域を活かすことに繋がると考え、飫肥杉課を組織した。最初の活動は、堀川運河整備で飫肥杉製の屋根付き橋が架けられる際に、「堀川に屋根付き橋をかくっかい実行委員会」に参加し、小学生への飫肥杉学習を実施するなど、



▲「obisugi design」

飫肥杉の魅力や歴史等を市民に伝える役割を担った。その後は、地元の製材業、木工業、建具業など、様々な木材関係者で組織する「飫肥杉デザイン会」と、オフィス家具メーカー(株)内田洋行及びナグモデザイン事務所で、飫肥杉家具「obisugi design」を共同開発・共同販売を行っている。

③ 受賞・百選等 [図表④5]

これまでの、油津地区に関する内容の受賞等の履歴は、平成 18 年に、堀川運河、杉村金物本店、チョロ船が、水産庁の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に、平成 19 年には、伊東家城下町飫肥と港町油津が、財団法人古都保存財団による「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選ばれた。また、堀川運河の整備事業においては、平成 20 年に「2008 年度グッドデザイン賞日本商工会議所会頭賞」を、平成 22 年に「2010 年度土木学会デザイン賞最優秀賞」を受賞した。同年、飫肥杉家具「obisugi design」も、「2010 年度グッドデザイン賞日本商工会議所会頭賞」を受賞した。



▲2010 年度 土木学会デザイン賞
「最優秀賞」『油津 堀川運河』

(8) これまでの取組の評価

1) 評価点

① 市街地の整備改善

ア 既存ストックである堀川運河や天福球場（広島カープキャンプ地）、そして油津赤レンガ館（油津の繁栄期の建物）の整備を行い、新たな観光スポットとなるような魅力拠点が形成された。また、魅力拠点を結ぶ道路の整備を行い、油津地区内を回遊する散策ネットワークの基盤が形成された。

イ もともと道路や公園、下水道等の整備率が高い地区ではあるが、まちなかにある公園のリニューアルや堀川運河の水質向上に寄与する下水道整備など、更に社会基盤が充実し、快適な市街地環境が整いつつある。

ウ 堀川運河の整備や周辺の道路及び景観整備等については、学識者、専門家、行政、市民団体で構成される「油津地区・都市デザイン会議（委員長：篠原修 東京大学名誉教授）」で議論を行い、堀川運河を中心としたデザインの統一化等を図ったため、観光地としてのポテンシャルを持つ、魅力ある市街地環境が形成された。

② 都市福祉施設の整備改善

ア エリア内の公立小学校において、バリアフリー化やエレベーターの設置などの改修を行ったことで、障がいのある児童・生徒が安心して学校生活を送れるようになり、本市の障がい児童・生徒の受入重点校として、教育環境の向上を図ることができた。

イ 生涯学習施設まなびピアは、体育館や会議室、図書館といった複合的な機能を有し、利用者の多様なニーズに応える施設であることから、平成 21 年度の年間利用者数は、市内の類似施設と比較して約 1.7 倍の 76,006 人であり、中心市街地への来街目的の一つとして一役を担うものとなった。

③ 居住環境の整備改善

ア 市営住宅は、全戸バリアフリー化を図り、非常用警報装置を設けるなど、安心して快適に住み続けられる良好な居住環境が提供され、防災上の危険性の解消、高齢化や多様化した住まいニーズへの十分な対応を図ることができた。

イ 中心市街地に隣接する市営住宅においては、堀川運河など、周辺の景観に配慮した外観を形成することができた。

④ 商業の活性化

ア 空き店舗対策事業を始めとした店舗誘致により、急激な空き店舗の増加を抑止するとともに、高齢者をはじめとした地域住民に憩いの場を設置するなど、商店街の新たな魅力形成を図ることができた。

イ 商店街駐車場の設置により、自家用車での来街者の利便性の向上を維持することができた。

ウ 各種イベントの開催により、通行量が減少する中でのまちなかの賑わい創出を図ることができた。

2) 反省点

① 市街地の整備改善

ア 堀川運河を中心とした回遊性の高い道路ネットワークの形成を図っているが、全ての道路整備が完了していないことから、来街者が快適な回遊環境を確保するために、継続して整備を行う必要がある。

イ 交流人口の増加を図るためには、回遊性を高める案内施設が不足していることから、総合案内や施設案内などの案内・誘導サイン等を整備する必要がある。

② 都市福利施設の整備改善

ア 小学校や生涯学習施設の整備を進めてきたが、市民ニーズの高い、若者世代が定住するような子育て支援の環境整備について検討する必要がある。

イ 高齢社会の進展に合わせ、「ふれあい交流プラザ」といった高齢者も憩える場を商店街に設置していたが、子どもと高齢者がふれあえる施設や老人ホーム等の設置が求められていることから、ニーズに沿った施設整備を検討する必要がある。

③ 居住環境の整備改善

ア 市営住宅の整備を行い、中心市街地での居住環境の向上に努めたが、空き家・空き地の増加に伴う、景観・衛生・防犯・防災問題により、市街地環境が悪化していることから、有効な土地利用と定住促進を図る必要がある。

④ 商業の活性化

ア 空き店舗対策事業をはじめとした店舗誘致は、入居がまばらで、商店街が面として機能しなかった。また、日南商工会議所や商店街、地権者との連携不足や、新規出店者とのコミュニケーション不足もあり、新規出店した21店舗中、現在まで営業している店舗は2店舗のみである。このように、店舗の継続営業に繋がらなかったことから、出店時のみならず、持続する連携体制の構築を含めて、空き店舗対策を検討する必要がある。

イ 過去のソフト事業においては、補助期間中に自主運営できる体制が形成できず、補助終了後、事業の継続がなされていないことから、自立運営できる体制づくりを、事業主体・市・商工会議所が連携して取り組む必要がある。

ウ 商店街や夢ひろばなどでイベントを実施しているが、まちの賑わいに繋がっていないことから、商業地と堀川運河周辺との道路ネットワークを活かして、堀川運河周辺の回遊ルートの設定などにより、訪れる観光客等も引き込む仕組みづくりが必要である。

3) まとめ

本市では、中心市街地を活性化させるために様々な取組を行ってきたが、旧計画を作成していないことから、各部署間の目標の共有や連携不足により、相乗的な効果が出ていない。今後は、これらの検証結果をベースにして、港町油津の魅力を活かしたまちづくりについて、総合的かつ一体的に取り組む必要がある。